

MRJ初飛行



愛知県営名古屋空港を離陸する国産初のジェット旅客機MRJ＝11日午前9時35分



発行所
山形新聞社
山形市旅籠町2-5-12
電話 代表023 (622) 5271
Copyright (c) 2015
Yamagata Shimbun

2015年
11月11日
〈水曜日〉

**電子
速報版**

やましん  新聞

特別号外

■やまがた
ニュースオンライン
yamagata-np.jp

■携帯・スマホ
[yamagata-np.jp
/mobile/](http://yamagata-np.jp/mobile/)



詳しくは山形新聞を
ご覧ください。

半世紀ぶり国産機

「世界の翼」目指す

三菱航空機（愛知県豊山町）が開発を進める国産初のジェット旅客機MRJ（三菱リージョナルジェット）が11日午前9時35分、初試験飛行で愛知県営名古屋空港（豊山町）から飛び立った。

国産旅客機の開発は、1962年8月に初飛行したプロペラ機「YS11」から約半世紀ぶり。国産ジェットは2000年代前半の開発開始から10年以上かけてようやく初飛行にこぎ着けた。

名古屋空港の滑走路では多くの報道陣や航空関係者が見守る中、白い機体がごう音とともに離陸した。午前11時すぎ、初試験飛行を終え、名古屋空港に着

陸した。「世界の翼」を目指すMRJは全長35メートル前後、座席数は70〜90席程度の小型機で、主に地方と地方を結ぶ路線で利用される見通し。ライバル社の従来機より燃費を約20%改善するなど、最先端の性能を武器に各国の航空会社に売り込んでいる。

MRJの開発は国家的プロジェクトで、経済産業省や国土交通省（愛知県豊山町）で実施する。三菱重工工業の子会社、三菱航空機が開発する小型ジェット旅客機。量産は三菱重工が受け持ち、愛知県内のほか三重県や神戸市の生産拠点で胴体や尾翼、主翼などをそれぞれ製造。最終組み立ては小牧南新工場

が全面支援。製造は三菱航空機の親会社、三菱重工工業が受け持つ。初納入はANAホールディングスに対し17年4〜6月を予定。米国の航空会社などの注文も受け、合計407機を受注している。

購読・試読のお申し込みは▶
フリーダイヤル **0120-81-8040**